

今後の審議の進め方について

委員長・副委員長 試案

これまでの委員会の審議を踏まえ、今後は以下のように審議を進めてはどうか

1. これまでの委員会審議及び「7000人の復興会議」中間整理を踏まえ、当面は、以下のテーマについて集中した議論を進めてはどうか

①「双葉町復興まちづくり計画」が目指すべきものについて

(例)

・計画の位置づけ

→単に「仮の町」※や「現在の双葉町の復旧・復興」にとどまらず、短期的な課題（避難生活の改善等）、中期的な課題（本格的な生活再建等）、長期的な課題（双葉町の復興等）を網羅した長期的な指針であるべきではないか

※「仮の町」とは、双葉町への帰還を目指すまでの間（中期的）の当面の生活拠点の場となる。

・計画の対象

→いまどこに住んでいようと、今後どこに住もうと、すべての双葉町民を対象とした計画であるべきではないか（「仮の町」に住まない、双葉町にもどらないと決断された方も含めた計画が必要ではないか）

・計画の基本理念

→計画に掲げる基本理念（キーワード）をどのように考えるか

②当面（帰還まで）の生活拠点の在り方について（短中期的課題）

(例)

- ・当面の生活拠点として、多くの町民がまとまって住む、大きな「仮の町」を必要とするかどうか
- ・「仮の町」は帰還までの仮の拠点とだけ考えるか、それとも移住する町民も視野に入れて考えるか
- ・「仮の町」はどのような町が望ましいか（例：放射線の安全性、交通の利便性、職場の近接性、気候風土の類似性、学校・公民館等公共施設）
- ・双葉町で育つはずだった子供たちの教育をどのように考えるか
- ・「仮の町」に住まないと選択された方にどのような支援が必要か

③双葉町への帰還に向けて必要な条件と双葉町の土地の復旧・復興について（中長期的課題）

（例）

- ・帰還するためにどのような条件が必要か（例：福島第1原発廃炉作業の安全性、放射性物質の除去の程度、インフラ・ライフラインの復旧）
- ・全域が帰還できるまでに相当な時間を要する場合に、線量が低くなった土地の利用の在り方についてどのように考えるか。
- ・津波被災地域の土地利用をどのように考えるか

④現在及び将来にわたる双葉町の文化・コミュニティの維持について

（例）

- ・全国の避難している双葉町民のコミュニティをどのように維持するか
- ・双葉町の歴史・文化を避難生活が長期化する中でどのように継承していくか

2. 特定のテーマに集中した議論を行うためには、部会が必要と考えるが、例えば、以下のような部会を設置してはどうか

（例）

- 当面の生活拠点の在り方について審議する「生活再建部会」
- 双葉町の帰還に向けて必要な条件や双葉町の土地の復旧・復興について審議する「ふるさと再建部会」
- 双葉町の文化・コミュニティの維持について審議する「きずな部会」

3. より多くの町民の意向を把握するため、関係機関とともに町民アンケートを行いその結果を審議に活用してはどうか